

サステナビリティマネジメント

オール東亜サステナビリティ方針

未来の子供たちに幸せが届くよう、
新しい価値創造に挑戦します

東亜合成グループは、持続可能な社会の実現と当社グループの持続的成長の取組みとして、「事業を通じた社会的価値の提供」、「永続的な企業基盤の強化」を目指しています。

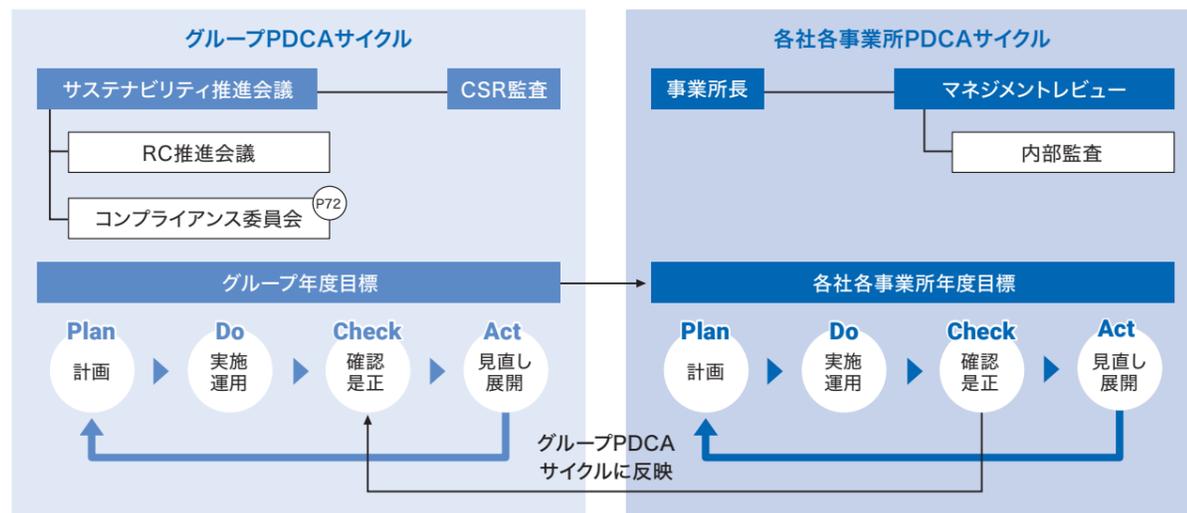
サステナビリティマネジメント体制

当社グループでは、サステナビリティ方針に則り、事業活動を通して持続可能な未来を社会とともに築いていこうと考えています。ISO環境・品質マネジメントシステムの改善の仕組み(PDCAサイクル)を運営することで、CSR活動の継続的改善を推進しています。

毎年のサステナビリティ推進の目標は、社長を議長とするサステナビリティ推進会議で決定します。

ここで決定したグループの方針・目標を踏まえ各社各事業所はそれぞれの実行計画を策定し、活動の推進、振り返りを行います。

グループ全体のPDCAサイクルを円滑に運営するため、サステナビリティ推進会議のほかに、CSR監査、RC推進会議、コンプライアンス委員会が設定されています。

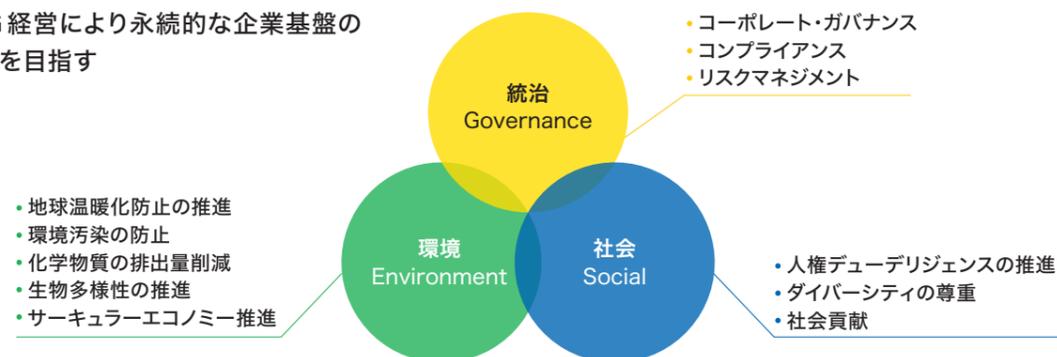


CSR監査: 各社各事業所のCSRの取組み状況について監査責任者が毎年現地監査する。

RC推進会議: 各社各事業所のRC活動の状況を包括的に管理するための四半期ごとに実施する全体会議。

コンプライアンス委員会: 全社のコンプライアンス施策の実施状況を監督・調査し改善勧告を行う。

ESG経営により永続的な企業基盤の強化を目指す



2025年中期経営計画におけるサステナビリティ関連の取組み

2025年中期経営計画のマテリアリティ「持続可能な社会の実現に貢献」に全社で取り組みます。

マテリアリティ要素	主な取組み	2025年 目標
気候変動の緩和	● 基本目標 2030年 CO ₂ 排出量 50%削減(対2013年比) 2050年 カーボンニュートラル	CO ₂ 排出削減 35% (対2013年比)
	● 工場省エネルギーの推進 (電解設備更新、熱利用効率化、低GHG燃料へ転換など)	CO ₂ 排出削減 20千t (2023年-2025年)
	● 再生可能エネルギーの導入 (太陽光発電、小水力発電、バイオマス発電など)	CO ₂ 排出削減 17千t (2023年-2025年)
	● CO ₂ 排出削減に資する製品を社会へ提供	
	● 当社製品のCFP数値を顧客へ開示、CFP管理強化	全パルク製品情報開示
	● 水素の有効活用、社会インフラ構築に貢献	電解水素利用率98%以上
	● CCUSや蓄電システムの検討	
気候変動の適応	● サプライチェーンを通じたGHG削減(原料調達、原料輸送、製品輸送などについて低GHG化推進)	Scope3を3%削減 (対2022年比)
	● 自然災害発生時の事業活動の継続	主要製品のBCP構築完了
	● 慢性的な異常気象(高温、寒冷、渇水、長期降雨など)に対する操業・設備対応	計画立案、投資算出
生物多様性の推進	● 気候変動の適応を想定した新規事業の創出(社会基盤強化、防災強化、環境衛生などに資する製品の開発)	
	● 生物多様性国家戦略2023-2030をベースに推進 ターゲット6「外来生物侵入率減少、優先度の高い地域での影響減少」として、船舶パラスト水薬剤の普及促進 ターゲット7「富栄養化、殺生物剤、プラ廃棄物削減を含む、汚染物の影響低減」として、植物工場の稼働アップ	パラスト水薬剤の売上高 +10%(対2022年比) 植物工場レタス売上高 +10%(対2022年比)
	● 社会貢献活動の推進(森林保全活動、河川・海岸のクリーンアップ活動の参加範囲を拡大する)	参加数+10% (対2022年比)
サーキュラーエコノミーの推進	● 生物多様性に貢献する製品の開発(廃水・汚泥の浄化、環境にやさしい製品の開発)	
	● 資源循環を目指した新規事業の創出(省資源化、リサイクル製品の開発、資源回収の仕組み構築) ● エコプロダクツ社内認定制度の充実、製品数の拡大	
サステナブル製品の拡充	● 環境対応型製品の開発 (バイオマス由来の製品、生分解やリサイクル製品の拡大)	
	● 超高齢化社会の介護需要に対応した製品の拡大	
DX推進	● 業務革新(全社間接業務の改革)	
	● 営業革新(デジタルマーケティング推進)	
	● 研究革新(MI・計算化学の利用浸透)	
	● 生産革新(スマートファクトリー実現)	
	● 人材育成(全社員のデジタルリテラシー向上)	